



冷蔵庫 節電効果 2%

冷蔵庫の設定を「強」から「中」にする。扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品を詰め込み過ぎないようにする



便座保温・温水のオフ機能とタイマー節電機能を利用する。また、未使用時はプラグをコンセントから抜く



温水便座 節電効果 1%

照明 節電効果 7%

照明の一部を消す。使用していない部屋の照明を消す。北海道では、照明による電力消費の割合が高いので、重点的に、注意してみましょう



リモコンではなく、本体の主電源を切る。長時間使わないときは機器のコンセントをプラグから抜く



早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊いて、冷蔵庫に保存する



画面の輝度をさげる。必要なとき以外は消す

待機電力 節電効果 3%

炊飯器 節電効果 3%

テレビ 節電効果 2%

※削減率は、在宅家庭のピーク時の消費電力（約700W）に対する削減率の目安です

環境問題を見つめて

今年の夏は電力不足の懸念から電力会社や政府から節電への取り組みを呼びかけることをよく目にするようになりました。節電をする時期、時間帯、具体的な目標値（7%削減）が掲げられています。

一方で私たちが考えなければならぬのは、大量生産・大量廃棄を背景とした、環境問題の根本的な課題に正面から向きあい考えていくことです。節電に限ったことではなく、資源が乏しい国に生活する私たちは、常にエネルギーを含め、限りある資源を無駄にしない、地球にやさしいライフスタイルを身につけることが大切です。

今年の夏の節電を重点的に取り組むことで、家庭、事業所で、無駄なエネルギーを消費していないか今一度考え、節電意識を日ごろからの習慣として身につけましょう。



環境衛生部長 前川 芳彦